

授業科目名	共生のための地球環境行動	単位数	2
担当教員名	つぼうち としのり 坪内 俊憲	担当形態	単独
実務内容	主に開発途上国地域において自然保全、野生生物保全管理分野の国際協力プロジェクトに関わる専門家、およびコンサルタント業務に従事してきた現場型教員として、星槎大学大学院においては環境教育特論他、星槎大学においては共生のための地球行動論、問題解決のための国際協働論、生物多様性と資源利用などの科目を担当。学生を始め広く参加者を募りモンゴル、ボルネオでのスタディーツアーを共生実習として企画・実施している。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎大学の三つの約束のもと、地球環境破壊の現場からの報告と自らの生活との関係を学び、どのように行動しなくてはならないかを考察することで、自らの生活、仕事の現場において以下の資質能力を発揮することを目的とした科目である。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 地球環境で人間が出現できた幸運について理解する。</p> <p>(2) 地球環境の循環について学ぶ。</p> <p>(3) 地球環境と人間社会の関係について学ぶ。</p> <p>(4) 人間活動による世界の環境破壊の連鎖的影響の現状を理解する。</p> <p>(5) 世界の環境破壊の原因と自らの仕事、生活との関係を理解する。</p> <p>(6) 地球環境と共生するために必要な人間社会の変革について学ぶ。</p> <p>(7) 有限の地球環境と人間が共生するために必要な変革と行動の考察を通して、生きる知恵を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>地球環境は、固体の岩石圏、液体の水圏、気体の気圏と、3つの圏を行き来し、循環する生物圏で構成され、人間社会はその全てに依存している。地球環境と共生関係を築くため、その循環を理解す</p>			

る。理解した循環を基盤として、世界の森林破壊、生物多様性減少、オゾン層破壊、砂漠化、気候攪乱などの報告を知り、それらの関係性を理解する。かつて、人間活動は主に食料生産と住居建設であったが、便利な生活を追い求める近代、現代社会では、大量の資源を使って商品を生産し、消費し、廃棄し、自然では存在しない物質を大量に放出した。結果、地球全体に連鎖的な影響が広がり始めた。世界の環境破壊の現場報告から、連鎖的变化を理解し、人間社会の問題、自分自身の仕事・生活との繋がりを理解する。地球環境と人が共生関係を築くために何が必要か、有限の地球環境で生き続けるために必要な変革と行動を考察し、地球で生きる知恵の習得を目標とする。

授業計画

- 第1回：地球の位置と動きについて学ぶ。（参考図書、SC）
- 第2回：地球環境を構成する岩石圏、水圏、気圏と生物圏を知る。（参考図書、SC）
- 第3回：適度に安定し、適度にかく乱した地球環境を理解する。（参考図書、SC）
- 第4回：宇宙に解放した水分子を介したエネルギー循環を理解する。（参考図書、SC）
- 第5回：地球で閉鎖した生物種を介した物質循環を理解する。（参考図書、SC）
- 第6回：人間社会の文明、文化と地球環境の関係について理解する。（SC）
- 第7回：有限の地球環境で生きていかななくてはならない人間社会を理解する。
- 第8回：世界の環境破壊と人間の経済活動との関係を学ぶ。（テキスト）
- 第9回：環境破壊の地球全体に与える連鎖的影響について学ぶ。（テキスト）
- 第10回：世界の環境破壊を現場からの報告を通して知る。（テキスト）
- 第11回：最も注目した環境破壊現場報告とその理由を考察する。（テキスト、SC）
- 第12回：世界の環境破壊の原因と自らの仕事、生活との関係を考察する。（テキスト、SC）
- 第13回：人が地球環境で生きていくために必要な個人、企業の変革について考察する。（テキスト、SC）
- 第14回：人が地球環境で生きていくために必要な国、国際社会の変革について考察する。（テキスト、SC）
- 第15回：変革に必要な行動についての考えを発展させ、地球で生きていく知恵を習得する。（SC）

定期試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングでは人間が生きていける環境、人間社会について学び（主に1回～7回）、次に対話形式で、世界の環境破壊の原因が回り回って自らと関係している事を知り、個人、企業、国、国際社会がどのように変わらなくてはならないか、意見を出し合って考え、地球で生きていくための知恵の習得を目指す。（主に第11回～第15回の内容を含む）

教科書

石弘之『地球環境の事件簿』岩波書店 2010年

石弘之『地球環境報告Ⅱ』岩波書店1998年

参考文献

- 人と自然が共生する未来を作る、坪内俊憲、保屋野初子、鬼頭秀一、星槎大学出版会
- 謎解き・海洋と大気の物理―地球規模でおきる「流れ」のしくみ、保坂直紀著、ブルーバックス、講談社
- 環境と文明の世界史、石弘之・安田喜憲・湯浅赳夫著
- 文明崩壊（上下）滅亡と存続の運命を分けるもの、ジャレド・ダイヤモンド著、楡井浩一訳、草思社
- 地球のなおい方デニス・メドウズ著、ダイヤモンド社
- チョコレートの真実、キャロル・オフ著、北村陽子訳、英治出版
- コーヒー、カカオ、コメ、綿花、胡椒の暗黒物語～生産者を死に追いやるグローバル経済、ジャン・ピエール・ボリス著、林昌宏訳、作品社
- コーヒー危機～作られる貧困、オックスファム・インターナショナル著、日本フェアトレード委員会訳、筑波書房。
- おいしいハンバーグのこわい話、エリック・シュローサー著、宇丹貴代実訳、草思社
- 世界を不幸にしたグローバリズムの正体、ジョセフ・E・スティグリッツ著、鈴木主税訳、徳間書店
- エコノミックヒットマン、ジョン・パーキンス著、古草秀子訳、東洋経済新報社
- 物乞うブッダ、石井光太著、文藝春秋社
- ハチドリのひとしずく、辻信一監修、光文社
- 砂糖の世界史、河北稔著、岩波ジュニア新書

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。